

公益の風 #48

東北公益文科大学大学院 公益学研究科 修了生

先崎 大裕



現在、日本には多くの
エスニック・マイノリ
ティ(民族的少数者)が
暮らしています。

出入国在留管理庁の最
新の調査によれば、令和
6年度末時点で、日本
に暮らす在外外国人は
376万8977人と過
去最高を更新しました。

様々な文化が入り混じ
る多文化社会の中で、全
ての人々が幸福に暮らす
ためには、国籍や民族が
異なる人々が互いの違い
を認め合い、対等な関係
を築いていく「多文化共
生」を実現し、発展させ
ていくことが重要となっ
てきます。

こうした中、地域にお

多文化共生と公共図書館

ける文化や情報の集積地
であり、社会教育の基盤
となる施設である公共図
書館においても、どのよ
うな図書館サービスを提
供していくことができる
かが問われています。

【研究の内容】

私は、公共図書館にお
ける多文化共生の推進の
ため、膨大な知的生産物
の中から公共図書館が自
館で収集、組織、保存す
るものを選ぶ「図書選択」
のあり方に焦点当て、研
究を行いました。そして、
B・Rグレイソン(Be
ssie R・Gray
son)が紹介したエス
ニック・マイノリティに
関する選書基準を取り上
げ、日本とアメリカの図
書選択論の中での整理を
行いました。

整理・分析の結果、グ
レイソンの選書基準はエ
スニック・マイノリティ
の視点からの価値判断を
問うものであり、図書選
択において利用者(読者)
の要求を充足することに
意義があるという「要求
論」の視点は含まれてお
らず、図書が図書館に受
け入れられるべき基準あ
るいは価値があるとする
「価値論」に位置付けら
れることが明らかとなり
ました。また、「要求論」
には既存の利用者が図書
館から離れないよう、エ
スニック・マイノリティ

向けの多言語、多文化の
図書を図書選択の対象と
しない傾向がみられるこ
とが分かりました。エス
ニック・マイノリティの
文化に配慮した選書を行
うためには、エスニック・
マイノリティの視点から
の「価値論」の重視と、
「要求論」の見直しが必要
であるという結論を導
き出しました。

【大学院で得られたこと】

私が大学院で得られた
大きな成果は、「協働」
「共創」の力を深く理解
できたことです。地域で
のフィールドワークを通
じて、院生と、多様な立
場の方々が意見を交わ
し、それぞれの視点を通
じて結びつき、共に活動
を行えたことは、私の人

生においてかけがえのな
い経験の一つとなりました。
この経験は、図書館
における多文化共生を
テーマとした修士論文の
執筆を進める上でも大き
な糧となりました。

私はこの春に東北公益
文科大学大学院を修了し
ました。思い返せば、あつ
という間に過ぎ去った2
年間でしたが、大学院で
学べた様々な知識や、経
験、ここで得た友人たち
は、本当にかげがえのな
いものとなりました。

研究漬けの生活からは
離れますが、今後も公共
図書館と多文化共生につ
いて考え、日本の多文化
共生社会の実現・発展の
ために貢献していきたい
です。



鶴岡キャンパス内にある致道ライブラリー